



今から約70年前にタイムスリップします。昭和の初期です。当時、東北地方では冷害が続いて人々の暮らしは苦しいものでした。とくに雪と寒さの続く冬のあいだは、作物がとれないばかりか、交通も閉ざされ、大変不便な生活をしていました。これを見かねた、山形県出身の松岡俊三代議士が、国会で初めて「雪国には雪による様々な障害（雪害）がある」ということを訴えました。

そこで、1933年（昭和8年）に雪害に関する農林省の調査機関を新庄市に置くことが決まりました。これが積雪地方農村経済調査所（雪調）です。ここでは、雪の性質に関するものから民具や漬物の作り方まで、広範囲の調査研究が行われました。雪の分野では、積雪の呼び名を全国共通にしたり、日本の細かな積雪分布図を作ったりするなど、私たちの先駆けとなる成果を多

数残しています。そして設置からちょうど50年目の1983年にその歴史の幕を閉じたのです。

当時の面影を残す木造建築（有名な建築家の今和治郎による設計）は、現在は新庄市の「雪の里情報館」として引き継がれています。ここでは、当時の雪害運動の経緯や人々の生活ぶりが展示されています。すぐ近くには「ふるさと歴史センター」があり、わらで作った雪靴など雪の中で使用された民具や、毎年催される夏祭りで見入った豪華な山車など新庄、最上地方の伝統文化の歴史を見ることができます。

（問い合わせ先：長岡雪氷防災研究所
新庄支所 1 0 2 3 3 - 2 2 - 7 5 5 0）



ふるさと歴史センター
雪国の民具が多数展示されています。
／開館時間 9～16時、毎週火曜日休館
大人 300円・高校生 100円・小学生 50円

共通ホームページ
<http://www.city.shinjuu.yamagata.jp>

雪の里情報館（右が旧雪調）／開館時間 9～17時、毎週水曜日休館、入館無料

編集・発行 /  独立行政法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 1 0298-51-1611(代)

企画課直通 1 0298-52-0814 ☎ 0298-51-1622

E-mail plansec@bosai.go.jp インターネット <http://www.bosai.go.jp>

発行日 / 2002.4.1